



友ヶ島の
おすすめの場所
7つ紹介しちゃう!

サマタイムレンタ"×和歌山市 聖地巡礼マップ

1 友ヶ島案内センター



「野奈浦広場」にある、友ヶ島内の案内所。キャンプが可能な時期にはここでキャンプの申し込み受付を行う。友ヶ島の玄関口である「野奈浦棧橋」からほど近く見晴らしのいい場所にあり、眼前には大阪湾が悠々と広がる。

「日都ヶ島駐在所」として登場! 慎平が二度目のループをした後、島内に潜む「影」による被害を未然に防ごうと電話した先が駐在所だった。この海岸沿いの駐在所では、駐在の凸村が仕事に励む姿が見られると見られないとか…?

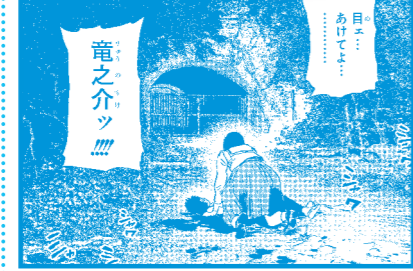
2 第2砲台跡



明治時代の頃、大阪湾へ侵入しようとする敵艦に対し、真横から砲撃を加えるべく政府が設置した要撃砲台の跡地。砲弾は友ヶ島と淡路島の間にある紀淡海峡を通過する。現在は台風や風雨の影響で一部が崩れ落ちている。

風化した姿が厳かな雲間を醸し出す... 慎平が初めて「ウシオ」と出会い、凄惨な夏祭りを経験した時、「南雲竜之介」が影と戦っている人物だと知る。ループ後、南雲に協力を仰ぐと、慎平がたどり着いたのがここだった。

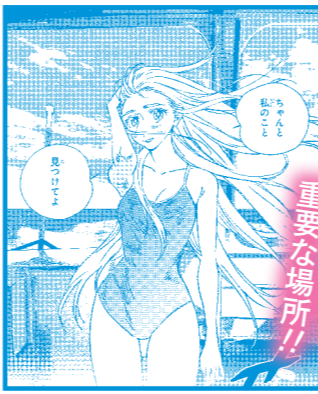
3 第1砲台跡に向かう坂道



友ヶ島に5つあった砲台のうち、紀淡海峡に面する友ヶ島西端の断崖上に設置された「第1砲台」へと続く坂道。第1砲台は明治時代に同地区で最初に置かれた砲台であり、友ヶ島と淡路島間を通る敵艦への砲撃を目的としていた。

葉擦れの音が響く鬱蒼とした道 懐かしい顔ぶれに再会した南方ひづるの脳裏に浮かぶ、忌まわしい過去。砲台跡付近の地面に力なく横たわる弟の姿を前に、彼の名を必死に呼ぶ自分の声と蝉の鳴き声だけがこだまする。

4 友ヶ島汽船



加太港と友ヶ島を約20分で結ぶ、唯一の定期航路。現在は「ともがしま号」と「ラビュタ号」の2隻が運航中。乗船中に晴れていれば、だんだんと近づく友ヶ島の様子を汽船から眺めることができる。

タイムリープ前の慎平と、すべてを見てきた「ウシオ」が、日都ヶ島へ向かう船の上で相見える。語りあう二人の間にある、時空を越えたすれ違い。すれ違いを埋めるため、二人は未知の「3日間」に臨む—!



汽船を降りるとここに着くぞ!

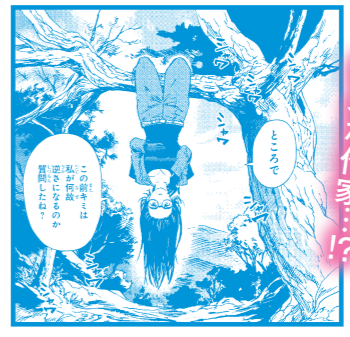
加太港と友ヶ島を結ぶ「友ヶ島汽船」が定期的に発着する、友ヶ島の玄関口となる野奈浦棧橋。広大な紀淡海峡に臨む棧橋からの見晴らしは素晴らしく、青い空と海による一面青色の世界を見渡せる。



5 友ヶ島の松



友ヶ島の沿岸部に多く自生するクロマツ。島の気候も相まってかノビノビと育ち、様々な大きさに枝葉が広がり繁茂している。野奈浦棧橋前の広場には、特に太く背の高いものが立ち並ぶ。



松にぶら下がるのは著名な作家...!?

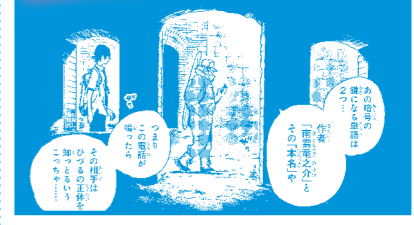
ひづるがぶら下がっていた、かなり丈夫そうなクロマツの大木。彼女曰く、ぶら下ると「考えが冴える」らしい。電話相手にも動いている様子から何度も実践済みのようなのだが、初心者にとっては難しそうだ。



7 第3砲台跡



明治時代の友ヶ島における最主力砲台であった「第3砲台」の跡地。保存状態がよいため、ほぼすべての施設を見学できる。現在はフォスボットとして人気があるが、場所によっては暗いところもあるため見学時は注意が必要だ。



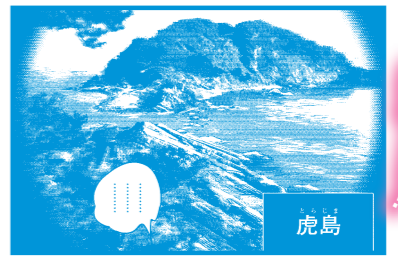
趣ある暗がりを隅々まで探索!

ひづるの協力者・根津銀次郎に連れられ、慎平は竜之介に会うべく砲台跡の内部へ。タイムリープをしたために「南雲竜之介」の本名を知っていた慎平を怪しむ根津。根津の信頼を得るために慎平がとった行動とは…?

6 虎島



友ヶ島は4つの島からなり、「虎島」はそのうちの一つにあたる。葛城修験の始まりの地として日本遺産に登録されている。現在は入島できないが、友ヶ島汽船などの船上から、その姿を見ることができる。



友ヶ島と連なるこの島が激戦の地に!

仲間たちと別行動をとっていた慎平は、彼らが虎島へ向かったことを知る。ループしたことで敵の動向を知った慎平だったが、敵による罠の可能性があった。慎平は虎島へ急ぐが...